

## 平成 25 年度第 1 回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成 25 年 4 月 25 日 午後 1 時 30 分～4 時
- 2 場 所 金のすず集会室
- 3 出席委員 委員長 中村 哲  
委員 藤浪 弘美、荻野 敬次、圓谷 加陽子、古泉 忠之  
高橋 めぐみ
- 4 出席職員 初谷教育長、能城教育部長、高橋文化課長  
石井館長、平野副館長、稲葉副主幹、伴主査、井上主査、多田事務員
- 5 傍聴人数 0 名
- 6 議 題
  - (1) 平成 24 年度下半期事業報告
  - (2) 平成 25 年度上半期事業計画
- 7 議事大要

事務局（稲葉）： ただいまより、平成 25 年度第 1 回「木更津市郷土博物館金のすず協議会」を開催いたします。

本日は、6 名全員のご出席をいただいております。よって「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則 第 8 条」により会議は成立しております。

また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第 3 条」に基づき、本会議は一般公開となっておりますが、傍聴人は 0 人です。

それでは会議開催にあたり、木更津市郷土博物館金のすず協議会の中村委員長に、ご挨拶をお願いいたします。

中村委員長： 本日はご出席ありがとうございます。

前々からお話してมาすように、この館は非常に大きな財産を持ってまして、金鈴塚の出土物をここへ持ってきたという事と盤州干潟の特別天然記念物です。館長さんを中心として、職員一丸となって頑張っていただきたい。本日はよろしくお願ひします。

事務局（稲葉）： ありがとうございます。続きまして、初谷教育長よりご挨拶申し上げます。

初谷教育長： みなさん、こんにちは。先生方にはお忙しい中、協議会のためにお集まりいただきましてありがとうございます。今日は登ってきましたら、子ども達がずいぶんたくさん歩いていまして、たくさんの方が館へ寄ってくれているようです。冒頭委員長さんの方からたいへんありがたい励ましのお言葉があったんですけど、この博物館の運営についてお力をいただければ、発展に繋がるとお願ひしますので、よろしくお願ひします。

事務局（稲葉）： それでは、続きまして、職員をご紹介します。

－職員挨拶－

事務局（稲葉）： それでは、総会次第によりまして議事に入らせていただきますが、運営規則により中村委員長に議長をお願いいたします。

委員長： それでは議事に入ります。議題1の「平成24年度下半期事業報告」の説明を、事務局よろしくをお願いいたします。

事務局（平野）： では、24年度下半期の事業について、報告させていただきます。

－資料により説明－

委員長： ありがとうございます。それでは、委員の皆様何かご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

藤浪氏： 中村先生にちょっとお聞きしたいのですが、こういう市立博物館の経営があると思うんですが、これだけ行事を重ねたら、見学人数はどうなっていますか？

中村委員長： 最終的なデータは持っていないので、断定できないんですけど、入館者数は、今全国に博物館が国、私立、公立すべて含めて5千館くらいです。小さいのはカウントしていませんが、年間10万人位いく館というのが理想だと思いますが10%くらいですね。いい時期で15%くらいですから、そういう意味では1万5千人ですか？上がってきていますよね、上をいったらきりがありませんけど、1万5千を越えたっていうことは、それなりの実績だと思っています。

藤浪氏： 今、ずいぶん小学生が来ていますね。

委員長： これは学校の先生達の力もあるんですけど、これは全国的な傾向だけど、高校、大学はガタッとこないんですよ、彼らはいっぱいおもしろいことがあるから、こないですね。

あと、歴博との共同調査は終わりですよ。

石井館長： 新しく更新しました。3年間です。

委員長： 学芸員の實習はどうですか？受け入れますか？大学の人たちとの連携は学芸員の實習というのは、昔みたいに大学が勝手に正規に入れ込むっていう、今は生徒の希望を聞いて、例えば東京の大学に行っているのに、帰省して地元の博物館に實習ということが可能になっていますから、木更津でも、夏休み近くや冬休み近くになると、あそこに旅行したことないからあそこに泊まってとか友達の家の下宿して、受けてみようという人もいるから、大学にうんと勧誘すると、一気に倍くらいになるから。特に我々は木更津にすんでいるからヒイキなのかわからないけど、この土地のロケーションと歴史と、あるところそんなになんか思わないですよ。駅から近いし、そういう意味では、いつか第1期の博物館みたいに観光地とかね何か違う意味での博物館作ったのがあった。第2期は調査、どういう文化財があるとか、どういう人材がいるとか、そういう資料を収集していった。今度第3期だから今度は学校の人とか地域の人とか、一緒に提携してうって出る。情報発信していく。一方的にこっちが作ったものを上意下達的に見せるというむかしのスタイルはいっさいダメですね。一緒になって何かやっていく、条件も権利も全部、イヤなこととお金は行政が引き受けますくらいなつもりでないとうま

くいかない。社会的状況とか経済的状況とか悪くなっちゃったから、起きない夢はもう一回收拾しないとだめですね。ということは今自分が何ができるかということのを洗いなおして組み立てる。そうすれば、これだけの事業があって、これだけの実績があるんですから、十分できると思います。大いにやってください。

委員長：他に何かないようでしたら、議題2の「平成25年度上半期事業計画」についての方に移ります。

館長：それでは25年度の事業につきまして、最初に私の方から基本的なご説明をさせていただきます。詳細の方は副館長より説明があります。平成25年度の職員体制からお話をいたしますと、24年度につきましては、専任館長を含めて5名体制でした。今年度につきましては、1名の常勤専任職員が増員をされまして、合計6名体制で館の管理、運営にあたっていくということで、1名の増を得てそれなりの充実を図らせていただいた状況でございます。具体的に本年度の動きについて話をさせていただきますと、先ほど委員長から国立歴史民俗博物館との共同研究ということで、第1期、第2期というような言い方をさせていただくのが良いかわかりませんが、本年の3月末日を持ちましてそういう意味での3年間が終わりまして、これでは十分ではないということで、今年度4月1日から28年の3月末まで第2期、3年間の共同研究ということで、合意に達しまして、既に共同研究を開始しております。その歴博との共同研究につきましては、前回までに分析をされたことを基にいたしまして資料の再調査を行い、さらに文化庁から指導がございました資料台帳の再整理をしたいと考えております。又研究者による報告書を年度ごとに発行していければ良いと思います。特に金鈴塚古墳出土の基礎整理ということで、台帳の作成といたしましては現在千葉大学の大学院生一人の方をお願いして実施をしているところでございます。何分にも資料の量が膨大に及んでいまして、できれば26年度以降も人を増やすことができればですね、複数の体制で速やかにこれを行うと。まずこれが完了しませんと、委員長がおっしゃっているとおり次のステージにはなかなか進むことが大変だろうということがございますので、まずその辺等を念頭におきまして事業の方を実施していきたいと考えております。なお25年度につきましては、共同研究の古墳研究第2号ということで、馬具についての刊行をできればと考えております。26年度につきましては、研究第3号という事で、繊維類ほかの刊行を予定しております。27年度につきましては、第4号という形で大刀類の刊行を予定しております。また、本年度の展示事業でございますが、企画展を5回計画をしております。また、特別展と致しましては、11月・12月に「仮称 幕末の木更津」の計画をしております。本年は木更津港発展の契機となった、1614年の大阪冬の陣からちょうど400年にあたることから、400年の前年にあたるわけなんですけれども、港町木更津をテーマと致しました特別展を計画しております。なお、26年度実施予定の「仮称 幕末の木更津開港400年記念展」に向けての基礎資料等の調査、あるいは木更津の町並みを再現するジオラマの制作を、本年度実施していきたいと考えております。ま

た、地域の博物館といたしまして、先ほどから委員の先生方からも出ておりますとおり、博物館活動の推進を図るために、博学連携によります児童生徒の学習支援活動としての小学校の体験学習、あるいは中学校の職場体験などの受け入れ、また、ガイドボランティア及び博物館友の会等と、市民との共同事業によります入館者の増加策の推進を図っていきたくて考えております。委員の先生方にもご理解を頂きまして、引き続きご指導いただければ幸いに思います。それでは詳細につきましては副館長の方から申し上げます。

事務局（平野）： 続きまして、平成 25 年度上半期事業計画について資料に基づきまして説明させていただきます。 —資料により説明—

委員長： ありがとうございます。それでは、ご意見、ご質問があれば、よろしく願います。

荻野委員： よろしいですか。

委員長： はい、どうぞ。

荻野委員： 私、何回かこの協議会に参加させていただいているんですけど、自分がここにいる立場というのは、木更津には美術館がない、美術館を造るとしばらくやっていたんですけど、そういう協議会がなくなりました。この施設が県から移譲されて美術館の要素もここで、スペースをとったからということで、そういうのをやったらどうかというのを提案させていただいているんですけど、上半期にはそういう事業は入っていないんですよ。とにかく博物館という施設なので、そういうのが全くできないということならば仕方ないんですけども、そういう弊害がなければ、是非これだけの展示施設があるわけですから、市民の方へ開放するような、例えば、木更津・・・だとか、そういった部分を企画していただき、多くの人が、違った人間がここを訪れることになるのでないか。それからちょっと踏み込んで、違った利用の仕方を考えて、下半期に少し研究していただいて、そういったような企画をやっていただけないかと、ひとつご検討をお願いしたいと思います。

委員長： はい。ありがとうございます。

事務局（平野）： 今年度は企画展として「中村常郎の世界」ということで、美術展を企画させていただきました。現在のところ下半期には考えておりませんが、検討して参りたいと思います。

荻野委員： とにかく一年をかけて、この協議会には学校関係の方もいらっしゃるし、関係者がいらっしゃるの、意見を聞きながらなんとか、違った方向性にできるように研究していただければと思います。よろしくお願いします。

委員長： この館が予算を組んで、やろうと思うと年間にこれだけやっているから、何か新しくやるにしたって10年先とかね、そうなっちゃうから、もし即ね、今荻野先生が言われたようなことを実施しようと思うならば貸し会場にしなくちゃだめですね。この部屋とか、下の一部を整備して。それを変えることは、県の県展、

千葉市の美術館は千葉市の事務局、行政はその側面的に入ると、〇〇先生がおられるところはスタッフが多いと、場所の提供と一部の予算の負担とそれでやっていけばね、そんなに時間はかからないと。ただし、そういう人力を外部の人達に作ってもらうように、一緒につくってもらおうということになると、どうなんですか？わからないんだけど。これだけ天下の木更津市ですからね、市の美術協会みたいなのが、きっちりあってね、市がいくらいくら出して企画展やなにか、年1回の収蔵展とかやっていかないと、例えば、ここで、何かやろうと予算をとったら、無理なんじゃないかなという気がするんですよね。そうすると今みたいな形でやりながら、寄付を募った方が楽なんですね、あとは、スタッフを再編成をして、その中に市の人達も管理で入ったですね、木更津市がやるっていえば、そのうち大きくなってくれば君津や袖ヶ浦も持ってくるだろうから、そのうち君津のなんとか展に持っていってもいいし、そういうようなスケジュールを立ててね、10年かかるところが5年でできる、それで、荻野先生達が持っている絵がだいぶあるって言ってましたよね。そういうものを繋ぎでやりながら、そういうのを目標にしますと予告編でやっていけば、盛り上がっていきます。やり方ですね。それを定着させようと思ったら、そういう組織を作ってここの空間を貸し借りできるように、ここでも、下の展示室でもやれば、できると思うよ。それで、大きなものはやらない、絵画のみとかね、最初は、そういう形でやっていけば、できないことはないと思います。だから、100%で何かやろうと思わないで、でたとこ勝負でどんどんやっちゃうと、そして失敗して、失敗して、みんなの同情をかいながら、お金も協力してもらいながら10年したらなんとか形にしたというくらいでないと何か新しいこと今の時代はできないよね。前みたいにアイデアがいいから、足らなければ何か借りてくればいいのかいう時代はもう過ぎちゃったから。そうするとみんなが寄って集まれるステージを作る。そのステージは提供しましょうというところから入った方がいいような気がするんですけど、私の個人的な感想は以上ですけど。

藤浪氏： 博物館だけとか美術館だけとか、そういうわけにはいかないでしょうから、分けてね、ここは美術コーナーとか、そんなふうにして、コーナーに分けて、木更津市の作品でしょうから、そうすると長続きするんじゃないでしょうか。

委員長： 博物館という名称は博物館法では、博物館、美術館、水族館、動物園、全部が博物館というんですね。その中で個別化になると、総合博物館なのか、考古館なのか美術館なのか、ここは一応総合博物館の体制をとって地域博物館をとっているんですから博物館で美術展やろうが、極端にいうと、小さな水槽を持ってきて淡水魚や盤州干潟の生物をもってきてやったっていい、違反しない。ですからきちんと運営する母体があれば、この空間だけこの時間だけは貸しますよと言う形にして、極端に言えばお金とればいいんですよ、1カ月いくらですよ。そうすれば歳入にもなるから、ただしこれだけぎっちりものが入っているとできる場所

は、ここと下の展示室の一部でしょうから、そんなに大きなのはできませんが。それと安西家とかあるんですからね。あそこで工芸展をやるとかね。彫刻とか屋内彫刻展とかそれは条件で、盗まれても、傷つけられても私らのせいではありませんと、そういう条件のもとで、やってもらう。彼等も監視して説明して協力してくれる。だいたいおおまかに出てそういうふうにはやらないと、全部やろうと思ったらお金がいくらあっても人がいくらいても足りない。それはやり方で別にあると思います。それと三年間歴博との研究が延長になったといいますけど、さっき館長さんのお話聞いて、延長になって指定になったということですか。ただし三年終わって指定まで、何年ですよとかわされちゃうといけないから、今から3年スタートしたら3年目には並行していて4年目くらいには指定してくださいと、国だってなにか聴聞会開いて、2年はかかっちゃうんです。だから、いきなり終わりましたといっても早くても3年くらいかかちやいますから、逆算して詰めていかないと、動かないです。で、それがある程度見通しがついてきたら、盤州干潟もお願いします。盤州はね、一般的な人達は関係ないから。あれが指定することによって漁業組合にも悪くはない。逆に保存されるし。返っていいんですよ、漁業のためにも。それから観光のためにもいいし。誰も損はしないから。この国宝の方を先にやって、ある程度見通しがついたら、こっちもお願いします。そうしないと千葉県ばかり、木更津市ばかり国指定にはいかないよと国は言うんです。そんな一人じめさせないと。全体の中でのバランスの中で、次はこちらとやっている訳ですね。いきなり行って、じゃあわかりました。内容がいいからやりますというのはよっぽどのがないかぎりだめ。だからローテーション組んでやれば、この二つは絶対に、今の段階で大いに結構ですから、持っていき方だと思うので、是非、頑張ってくださいと思います。

館長：先ほど荻野委員からお話をいただきました、美術館的な博物館ということで、木更津市芸術文化協議会をやっている頃には、昔のアインスのB館3階で、何年間に渡って、市の収蔵している絵の展覧会をやったんですけど、途中でそれができなくなったということで、現在に至っているということですけど、そういった荻野議員のお話にございましたとおり、この間、市の収蔵品についても、富来田公民館の方に保管したままということでございますので、初年度の試みなんですが、中村委員長のお父様の膨大な数の美術品の中から何点かを初めにやっというということで、できれば、文化課が所蔵しております、絵画等数百点ございます、その残されたものの展示等をしていかなければならない、いうこともございますので、それらをやった上で、今委員長さん、荻野委員がおっしゃったようなことを進めていければと考えております。それから国宝が問題なんですけど、これは、マスコミ等で賑わしていたんですけど、4月3日に開かれました、政府のクールジャパン推進会議です、内閣府の政務三役が文化財を地方に人を呼ぶ観光資源としてもっと活用すべきだと、いわゆる国宝への名前の呼び方、呼称の統一をされた。昭和25年以前はすべてが国宝というふう

呼んでいる。それ以降重要文化財という呼び方もできて、国宝級のものが2段階になったというようなことでございましたけれども、これが国宝への呼称統一を提案されて、4月中に移動会議をまとめる提言にこれを盛り込まれる可能性がでてきた。文化庁によりますと国の重要文化財は12874件、今月1日現在ですけど、そのうち国宝が10分の1以下の1085件、平成24年度に新たに指定を受けたものが数件に留まっていると、いうようなことでございまして、先ほど申しあげた日本では昭和25年に文化財保護法が施行されて、それまで、全て国宝の呼び名だった文化財のうちで、極一部のみを国宝に指定をしまして、残りを重要文化財とするしくみに改められた、で歴史的価値の高い建造物や工芸品は各地に点在をしていますが、重要文化財は海外へのアピール力は弱く観光資源としての活用は不十分だったのではないのか、ということで、これに対して国宝は法的に重要文化財の一種であるが、ナショナルプレジャーということで、諸外国でも一般的に表現されている。外国人にも非常に分かりやすい名前に改めることで、観光客を呼び込む起爆剤としたいというような考えがある、ただし文化庁では重要文化財を全て国宝に指定すれば国宝としての希少価値が薄まるというような慎重案もあり必ずしもこれが提言案に盛り込まれるかは不透明な部分もある。問題に一石を投じているというようなマスコミで報道がございましたので、お知らせをしておきたいと思います。いずれにしても萩野議員の方からございましたご提案につきましてもあゆみは遅いかもかもしれませんが、取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長： そのことは新聞に載っていましたが、文化庁はああだこうだと言って、明らかに重要文化財と国宝とはランクに差がありますからね、一律にできないって言っているでしょ。だから国宝にするっていうのは、条件付けすぎちゃって、みんなめんどくさくなっちゃって持っていけないんですよ。ここの場合は絶対、一日も早く、何か、言ったら、言ってくださいよ。私どんどんいきますから。先ほど萩野先生が言われた、ここの空間の中でやれば、一部整理してやることはいいんだけど、例えば今度新しく市庁舎を作るといったらどこか開放するとか、市民会館ありますね、昔、県でも美術館が無い頃は県の文化会館でやっていたんですから。そういうような形で、パネル回ししてね、そこで、実証して、収蔵するっていうのは大変だけど、ランクの高いのはここで、2段階くらいにするとか、やり方ですよ、いくらでもあるんです。かといって、公民館でやりましょうと出先でやっちゃうとおもしろくない人が出てくるだろうから、市役所とか中心になって実証したものがここでまたやると。そういうふうな2段階でやれば、まあなんでもその場でできませんじゃなくて一緒にやりながら発展していきましょうというような形でやれば、できるような気がしますね。

藤浪氏： 県指定とか、国宝とか、国指定とか、やっぱり一段階上げるっていうのは、何か理由が必要なんですか？

委員長： 理由もありますし、必ず国宝として調査します。ラフな絵ではだめで、きちんとした絵をもってきなさいよと、そのためにきちんと調査して最後まで書き込んで

なさいよと。それからいくら細部まで書き込んでも、ランク低いがありますよね。それは、だめ。むかし調査したから、昔はずさんだから、佐原のお祭りだってちゃんと国指定にしましたでしょ。あれだってだめだったんですよ。それをさんざんやって、あれもってこい、これもってこいってうるさいんですよ。あれもずいぶん時間はかかったんですよ。でも他ののは早かった。だから何年もかかる間の情熱と体力がないとだめ。木更津についてはこの2点があるし、そんな0からやる調査じゃないし、私は是非やっていただきたい。

藤浪委員： 私も、金のすずくらいはと思っているんですよ。

委員長： そうなんですよ。

藤浪委員： あの時期ですから、昭和25年ですから、

委員長： そうなんですよ。そここのところをそうだって言い切れるだけのデータをもってきなさいと言いたいですけど、そこまで出来ないですよ。それに近いデータをもっていけばいい。ここと歴博が足並みそろえて申請すれば、それをノって言える専門はいないはずだと。今の日本の体制の中では。現役でやってるみなさんたちは、言いたいこと言ってって思うかもしれないけど、それが大変なことはわかっているんですけど、今の赤ちゃんくらいの人から感謝されますよ。またやらなくちゃいけないんじゃないかな、世界的にしょうがないです、これは巡り合わせなんだから。一つよろしくお願いします。

それじゃその辺よろしいですか？上半期の計画は。その他何かあれば。

古泉委員： わたし、中学校に在籍しているものですから、学校等との連携について話させてください。小学校の見学や体験学習が多いというのはたいへんありがたいことだと思うんですけど、先ほど話題になっています、金鈴塚のことについてもそうですが、市制70周年で特別展をやったり、あるいは刊行物を出しましたよね、あれを活かしてですね、あの成果を是非学校教育で活かしたいというふうに思っています。それで、小学校の社会科の副読本の一部改訂が今年あたりからスタートするんじゃないかなと思うんですが、あそこにも写真はありますよ。ただ、記述が非常に充分でない部分があるんですね。その改訂の一つの内容にそれを考えてはいるんですけども、それを市史とかです、刊行物の内容を、そんなにたくさんは入れられないですけど、それを入れてそれを使って副読本を充実させると。その副読本というのはですね、三年生が使うんですよ、小学生では五年生が産業学習で、六年生が歴史学習やるんです。高学年でそれが十分使えるんです。それを使っての見学だと思うんですね。あの制度は十分使いたいと思います。もっと言うと、木更津の小学生は四年生、五年生、六年生では必ず木更津の古代、中世、近世の、古代の古墳時代、ここにもある大野家の関係のある鎌倉時代、江戸時代とくるわけで、木更津はこの鎌倉時代のこの部分っていうのは非常に薄かったですよね。そうしますと、数字的にも非常に郷土史がマッチするんですよ。そういうまだ開発されていない部分がありますので、学校教育等の中では特に小学校の社会科の部分です、非常に有効な教材になると思います。それ



が一つだと思います。それと質問したいんですけど、ここ会議室ですよ？この会議室の運営というか充足率というか、年に埋まっている、使っている頻度はどれくらいありますか？

事務局(稲葉)： この集会室につきましては、貸館業務をすることにはなっていないんですね。そのために、原則博物館の事業等で使うということで。ただその代わりですね、学校などが昼食、天気良ければ外で昼食をとって午前午後で博物館を見学するとか、そういうときに天気が悪い時とかは、こちらの方でこちらを使ってくださいということでお貸ししたりはしております。

古泉委員： わかりました。すいません。学校の教育の立場からすると、会議室を提供してもらって、そこで会議をして展示を見てもらうというのは非常に重要だと思うんですね。かつて、ここ毎年先生方の研修会に例えば夏休みとか、ここを開放してやってもらってやってるんですよ。ああいうときだけじゃなくて、それはかなりの人数が来ます100人近く来ますから。そうじゃなくて、もっと木更津市内の研修会なんかをですね、まあ社会科とか博物館関係についての会議になると思うんだけど、一緒に見るとか。利用の仕方とかをノウハウを良くわかるように、ここに集めるための手段としては有効かなと思います。会議と一緒にタイアップさせるというのは一つの手だろうと思うんですよ。ちょっと聞いたんですけども、木更津市の小学校、社会科の研究推進委員会をここでやって、その先生方が集まった、18校小学校ありますから20人ぐらい集まってやって、それにあとに計画して見てもらって、その活動方法について考えるなんて非常にいいかなと思いますけども。子ども達、小学生全員にこの木更津の遺産を学ばせる。そして、教員にもあるものを活用する、ノウハウを研修させる。やっぱりこの2つが非常に大きいだろうと思うんですね。伝統文化やあるいは宗教の学習の充実っていうのは、もうかなり強く言われてますので、子ども達は調べるのは得意なんですよ、インターネットですぐ調べる。だけどね、考えたり、フィールドワークをしたり、あるいは体験するっていうのは非常に弱い。ですから、それを一つの良い部分がいっぱいありますので、ぜひ小学生にはそういうふうに学んで、中学生が職場体験でも関わりますけど、そういうところでもですね、協力してやれば。ともかく小学生には全部、全員が一度この学習をするというシステムっていうか、環境の編成を木更津市は進めるべきだろうと私は思ってます。

委員長： そのとおりだと思いますよ。学校教育と社会教育と一緒に連携してやらないとダメなんですよ。それから学校教育のカリキュラムの中に入れてもらうっていうことは、継続していくためには継続は力なりなんかがみんな必要なんです。

古泉委員： 必ず子ども達はどんどん入れ替わってきますから。またどんどん入学してきますから、それはすごい応援団になるんじゃないでしょうかね。

委員長： ただね、県もそれやると、こういう先生のような熱心な先生のとくはいいんですよ。いなくなっちゃうと元の黙阿弥なんだよね。カリキュラムの中にきちんと郷土の歴史の学習とか体験とかいうことを入れて、何時間とか割り振ってもらわないと。

それとね、ここ貸し出しのあれがないっていうのは県なんかもそうだったんだけど、館長権限でやっちゃうんですよ。

藤浪委員： でもここは、会議して欲しいよね。いろんな催しもあるだろうから。

委員長： もちろん、館の行事のときは外すんですよ。先生方に利用してもらうのも、館の事業の一環の参加者として入り込んでもらうんであって、学校行事として入り込むんじゃないくて。

古泉委員： 飛躍してますけど、木更津開港 400 年っていうのはすごく興味関心がありますね。どういうふうになるのか、私面白いなと思いましたけど。まだこれから企画するんでしょうけど、横浜対抗じゃないですけど、面白いなと思います。

館長： 内容を少し。お話して。

事務局（稲葉）： はい。実は博物館の方としましては、うちの博物館の目玉となるものとして、一つは当然金の鈴という事で、今共同研究も含めやっておるんですが、次がやっぱり港町木更津が木更津のやはり代表するものだろうというふうに考えております。その中で港を特に今回テーマにして、今回職員として私も含めですね、港が専門の人が一人もいるわけではないので、これから、テーマとしては博物館としては取り組まなければならないテーマであろうという事で実は企画しております。これからのいろいろとアンテナをはって、今年一年調べる限り調べてやっていきたいと思います。そして一応本年度は、木更津の町のジオラマを製作する予定でおります。ただそれは本年度末に出来まして、来年の港木更津の特別展において展示公開をするという予定でおります。ですから、ジオラマを作っていく段階でいろいろな調査をしたものが反映していくはずですので、

古泉委員： それは、鳥瞰図か何かが見える地図を使ってそれを作る。

事務局（稲葉）： 鳥瞰図も参考にいたします。ただ、鳥瞰図もよく調べていくとデフォルメしている部分がたぶんにありますので、その辺はじっくりと精査構図等調べながら。あとは、明治時代の写真とか絵葉書とか等がありますのでそういうものを利用して、あとは市内で江戸時代の小絵図とかをお持ちの方等いらっしゃいますので、その辺の資料調査を進めながら煮詰めていこうと考えております。以上です。

藤浪委員： 開港 400 年とは？

稲葉： 来年、2014 年です。

館長： 先ほど古泉委員の方からお話がありました、教員の研修会ですが、昨年の実績がございますので、できれば、年度の計画教えていただいて、こちらと重複しないように、年間計画を作れば、なおいっそういいかなというふうに思います。ご協力いただければ、よろしいかと、よろしく申し上げます。

委員長： その開港 400 年の調査は何を・・・？もったいないよね、すごいいいでしょう。極端な話、昔の写真と今の写真を比較したり、そしたらね、そういうのに、ひっかけてね、例えば、木更津の新百景をね、絵を描いてもらうとか、写真を撮ってもらうとか、昔の百景なり、今の発展した木更津の百景なり、それで、みんな家にある家

族写真なんかで、風景もいっぱい写っているでしょ、そういうのも提供してもらってね、もらっちゃうんだよ最後。嫌がる人もいるけど、くれる人もけっこういるの。そうすると、いいデータとして古文書みたいだね。昔のさっきの国宝でアピールしていくのと、新百景なんておもしろいと思うよ。絵と写真でね、小学生からお年よりまで、全部参加できる。自分等が持っている新百景、それを大々的に審査させる。マスコミ使って、そしたらがんがんにただで宣伝してくれるから。ま、ちょっとどんだん話が跳んじゃうけど、それで、うまくいけば、今年は、絵画、来年は彫刻とか、どんだんやっていけば、今新住民も多いから歴史も地理もこんなすばらしいものが、とかおもしろいがあるって、こういうの知りたがる人、意外といっぱいいると思うんだよね。大変だけど、期待しています。

古泉委員： 子ども達も知らないことたくさんありますよ。

委員長： 意外とね、今まで、やっているところは、やっているんだけど、もう一回掘り起こして光を当てなおして、もう一回イメージしてやってみる。これだけ、事業を金のすずはやっているわけだから、やってないものがないくらいやっているんですよ。もう一回今の視点で、オブラートかけてね、やり直して、新しいシステムでやれば、成功間違いなし。新しいことを始めるというより、今まで、やっていたことを、洗い直して、問題意識を再調査してみれば、もうこれだけやっているんだから。まあ職員も増やしてくれるらしいから、頑張ってください。

それでは、25年度の上半期事業計画はこれでよろしいでしょうか。

その他何かございますか。

では、事務局の方へお返しします。

事務局（稲葉）： 本日、委員の皆様には、ご多忙のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

今後とも当館の博物館運営業務につきまして、よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

また、次回の協議会は、本年度の10月を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして、平成25年度第1回木更津市郷土博物館 金のすず協議会を閉会いたします。

なお、ただいま当館では、企画展「大野家文書と鋳物師の世界」を開催しておりますので、お時間のある委員の皆様には、これからご案内いたします。展示室は、階段を降りました2階になります。どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

一同： お疲れさまでした。

会議録署名人 委員長